

いつもいつも、元気を貰ってます、  
ありがとう！  
いつか僕も皆さんと一緒に、  
人に元気を与えられるように、  
目の前のことを一生懸命頑張ります。  
ファイト！

きずな新聞 けん(東京)



発災後、蛇田中で活動した者です。  
あの日は卒業式で、体育館の紅白幕が  
印象に残っています。震災から数年後、  
学校のWEBを見ると、学校行事を行えるほど  
復興されて、目頭が熱くなりました。  
まだ道半ばかと思いますが、一歩一歩  
進んでいって下さい。  
気持ちは常に皆さんと共にあります。

深谷赤十字病院 M

震災から10年が経ちましたが、  
今も心苦しい思いをされている方も  
いらっしゃるかと存じます。  
3月11を迎える度に、  
救護でみた光景が思い出されます。  
一刻も早い復興を  
心よりお祈り申し上げます。

日赤長崎原爆病院 さだはる



救護班の一員として、  
石巻市内の避難所の巡回診療などに  
参加しました。避難所の方々から、  
「遠いところからきてくれてありがとう！」と  
声をかけていただいたことが忘れられません。  
石巻のみなさんからいただいた  
優しい気持ちを忘れず  
南海トラフ地震に備えていきます。

日赤高知県支部 吉岡邦展

2011年6月梅雨の頃、  
公民館や小学校の避難所で活動しました。  
避難所や立ち寄ったお店で声をかけて  
いただき、張りつめていた気持ちが  
和らいだことを覚えています。  
“がんばっぺ石巻”にも励まされました。  
どうぞこの10年間の歩みを労って  
いただきたいと思います。

名古屋第一赤十字病院 服部希恵



震災当時、石巻市内の避難所で活動しました。  
当時新人だった私は目の前の出来事に  
圧倒されるばかりでした。  
10年後の今、大災害と言える  
“コロナ禍”の中であの時の経験から  
学んだことや、出会った方々の言葉が  
自分の心の支えになっています。  
皆様もどうかお体を大切に下さって下さい。

伊勢赤十字病院 N

ボランティアに参加して思うのは、  
いつもこちら側がはげまされている  
ということ。忘れてはいけないことを、  
思い出させていただいています。  
コロナが落ち着いたら、  
必ず手洗いで届けに参ります！  
コロナに負けずに、  
元気でいてくだされ。

きずな新聞 ひろみ(仙台)

3.11は決して忘れてはいけないとの  
がんばろう東日本  
東北魂！



日赤医療センター 渡辺光一



私は、救護班として石巻市の神社や  
集会所等で救護活動にあたりました。  
活動場所近くのひび割れや陥没・寸断された  
道路が印象深く今でも思い出します。  
被災から7年後、宮城に行く機会があり  
復興が進んだ様子を感じました。  
コロナ禍の折、  
健康には気を付けてお過ごし下さい。

広島赤十字・原爆病院 橋本智聡



震災から約1か月後、私は石巻に  
派遣され巡回診療を行いました。  
診療中に皆さんから  
「石巻まで来てくれて本当に感謝します」  
と言って頂いたことが大変嬉しく、  
その後の活動の励みになりました。  
コロナ禍で大変な時期ですが  
皆で乗り越えていきましょう。

熊本県赤十字血液センター 奥達成



東日本大震災から10年が経過し、  
私も熊本地震、熊本豪雨災害と  
災害救護活動に尽力してまいりました。  
自然災害を防ぐ事は困難ですが、  
被害を軽減できるよう「防災事業」を  
この10年で数多く学びました。  
今後も赤十字職員として災害へ備えていきます。  
共にがんばりましょう。

大分県赤十字血液センター T

新聞をお読りする時、初めて会う私に、  
震災からこれまでのこと、  
いろいろお話して下さったこと忘れません。  
『美味しい物いっぱい』  
『心温かい方いっぱい』  
の大好きな石巻に、必ずまた伺います。  
お身体を大切に、  
お元気で過ごして下さいね。

きずな新聞 あっこ(大阪)



発災直後に最初の臨時救護所を  
石巻市立蛇田中学校に立ち上げました。  
千葉県支部の看板を掲げると、  
避難者の方が「千葉から来てくれたんだ。  
遠いところありがとう！」と言ってくれ、  
その後も口々に「ありがとう」と  
温かい声掛けをいただきました。  
励まされたのは、私たちでした。

日赤千葉県支部 T



もう10年になるんですね。  
新型コロナのため、  
石巻とは1年間ご無沙汰してしまいましたが、  
また会いにいきますね。  
時間が経っても悲しいお気持ちは  
変わらないと思いますが、少しでも  
元気出してもらえると嬉しいです。  
新聞配りにいったらお話ししましょう。

きずな新聞 佐藤俊一/しゅん(東京都)

10年間、  
たくさん涙と笑顔を皆さんと共有しました。  
直接お会いした方、  
紙面を通して出会って下さった方、  
すべての出会いに感謝です。  
11年目のこれから、共に歩んでいきましょう。  
あの日を生き抜き、  
そして今日まで生きてくれて、ありがとう。

きずな新聞 岩元暁子/あき(東京/石巻)

